

私は、今年の3月に大学を卒業し、4月から保育士として働いています。在学中は、地域包括支援学科のソーシャルワークコース保育士養成課程に所属しており、保育士と社会福祉士の国家資格を取得しました。さて、今回は、乳児院で働いてみてのやりがいや子どもと接する難しさについて話していこうと思います。

私は、4月から乳児院で働いて、約半年がたちました。まだまだ一人前とは言えませんが、乳児院での仕事のやりがいとしては、子どもたちの成長、そして、笑顔を見る事が出来る場所だと思います。例えば、4月の時点では、お座りも安定しなかった子が今ではつかまり立ちをするようになったり、言葉をどんどん覚えて言葉でコミュニケーションが取れるようになったりと、子どもたちの成長を見た時は、自分の事のように嬉しく思います。最近では、保育者を「〇〇さん」とさん付けで呼ぶようにしているのですが、今まで私の名前を上手く言えなかった子どもが私の名前を認識して、名前を呼んでくれるようになったという出来事がありました。その時は、子どもの生活の中に、自分が受け入れられているような気がして、保育者として乳児院で働けることを嬉しく感じました。

しかし、中には、この話を聞いて、幼稚園・保育園でも子どもの成長は感じられるのではないか？と思った方もいるかもしれません。ですが、乳児院は24時間365日子どもたちが生活を送る家です。私たち保育者は、朝起きてから寝るまで、そして寝てからも24時間、子どもたちの身の回りのお世話をしています。それは、幼稚園・保育園と違うところであり、乳児院の保育士しか経験できないことだと思います。また、子どもたちの笑顔にいつも元氣や癒しを貰っています。何か成し遂げた時の子どもの笑顔、名前を呼ばれて「はい」と手を挙げている時の笑顔、子どもの笑顔も様々で色々な表現を見る事が出来るのも乳児院の素晴らしい所だと思います。

ですが、乳児は言葉でのコミュニケーションが取れない子が多い為、子どもに何か伝える時、子どもが保育者に伝えようとする時には困難さを感じます。何か危険なことが子どもに迫っていて、注意を促したとしてもその言葉掛けや促し方でも子どもの行動が変わってきます。部屋を走っている子どもがいる場合、皆さんなら何と言って声掛けしますか？私は、働き始めた最初は、「走ったら危ないよ」「ケガするよ」といった声掛けをしていました。しかし、子どもたちは一向に走るのを止めませんでした。私たちならなぜそういわれているか、なぜ走ってはいけないのか分かると思います。しかし、乳児院にいる子どもたちは、危ない＝けがをするという認識がまだなかったりします。「ケガするよ」と言われても、怪我しなければいい、そんな発想にもなりますよね？そこで、私は言葉かけを変えるよう工夫しました。この例だと、走っている事に注目して声掛けせず、トトロの散歩を歌ってそのリズムに合わせて歩くよう促し、「走らないよ」ではなく「歩こうね」と声掛けを肯定的な言い方にしました。乳児院にいる子どもたちは、抽象的な考えがなかなかできません。そのため、私は、子どもたちへどう声かけ等をすれば伝わるのか毎日試行錯誤し、仕事に取り組むよう心掛けています。

最後に、今から実習などがある皆さんに、先輩として一つアドバイスしておきたいと思います。私は、様々な種別の実習に行き、自分のやりたいことが選択できた気がします。なので、実習選びのアドバイスとしては、ここに行きたいというのが決まっている人もいるかもしれませんが、皆さんにはぜひいろんな種別の実習にあってほしいと思います。在学中に、いろんな種別に実習に行くことで、この種別に行きたいと思っていたけど自分には向いていないかもしれない、この種別には行きたくないと思っていたけど自分に向いているかもしれないなど、自分の力が一番発揮できる場所を見つけることができ、それが就職にも繋がってくると思います。是非参考にしてみてください。